

令和 8 年用ほうれんそう・スイートコーン・ながいも病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

ほうれんそう

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕			注 意 事 項	
生 育 期	べ と 病	U17 21 40	ピシロックフロアブル 1,000倍 (10㎖／10 ℓ)〔前日まで／2 回以内〕 ランマンフロアブル 2,000倍 (5 ㎖／10 ℓ)〔3 日前まで／3 回以内〕 レーバスフロアブル 2,000倍 (5 ㎖／10 ℓ)〔3 日前まで／2 回以内〕			のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	1. べと病対策として抵抗性品種を利用する。 2. 葉の裏にも十分散布する。 3. 多発生の場合には散布間隔をつめる。
	アブラムシ類	1B 4A	マラソン乳剤 2,000倍 (5 ㎖／10 ℓ)〔14日前まで／4 回以内〕 アドマイヤーフロアブル [㊞] 4,000倍 (2.5㎖／10 ℓ)〔前日まで／2 回以内〕				
期	ハウレンソウ ケナガコナダニ	6 13 10B	アファーム乳剤 2,000倍 (5 ㎖／10 ℓ)〔3 日前まで／2 回以内〕 コテツフロアブル [㊞] 4,000倍 (2.5㎖／10 ℓ)〔2 葉期、但し収穫14日前まで / 1 回〕 ネコナカットフロアブル 1,000倍 (10㎖／10 ℓ)〔3 日前まで／2 回以内〕			のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	1. コテツフロアブル [㊞] は散布時の展開葉に白斑症状を生じることがあるが、その後に展開する葉にはこれらの症状は出ない。 2. アファーム乳剤、コテツフロアブル [㊞] 、蚕に対する毒性が強いので注意する。
	ハスモンヨトウ	5	ディアナ S C 2,500倍 (4 ㎖／10 ℓ)〔前日まで／2 回以内〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。				

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	ラッソー乳剤	15	150㎖／100ℓ	は種直後	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科雑草には効果が高い。 ・砂壤土では使用しない。 ・薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行う。
	アージラン液剤	18	800㎖／100～200ℓ	は種後～子葉展開期	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・吸収移行型除草剤 ・カヤツリグサ科雑草には効果が劣る。 ・25℃以上の高温時は使用しない。
処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200㎖／100～150ℓ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) (収穫7日前まで)	雑草茎葉散布	1 回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要 ・スズメノカタビラには効果がない。

スイートコーン (未成熟とうもろこし)

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕			注 意 事 項	
出 芽 時	ネキリムシ類	1B	ダイアジノン粒剤 5〔出芽時／1回〕を10 a 当たり 6 kg 土壌表面に散布する。			1. 出芽時に1回のみを使用とする。なお、移植栽培には使用しない。	
生育期	アワノメイガ	30	プロフレア S C	2,000倍 (5 ml／10 ℓ)〔前日まで／3回以内〕	のいずれかを100～300 ℓ／10a 雄穂抽出始めと、その10日後に2回散布する。	1. プロフレア S Cは、ツマジロクサヨトウにも登録がある。 2. プレバソンフロアブル5は、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウにも登録がある。 3. 合成ピレスロイド剤（アグロスリン乳剤 [㊞] ）は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。なお、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 4. アグロスリン乳剤 [㊞] は、アブラムシ類、アワヨトウにも効果があるが、アワヨトウと同時防除する場合は1,000倍で散布する。	
		28	プレバソンフロアブル5	2,000倍 (5 ml／10 ℓ)〔前日まで／3回以内〕			
		1B	エルサン乳剤 [㊞]	1,000倍 (10ml／10 ℓ)〔14日前まで／4回以内〕			
		3A	アグロスリン乳剤 [㊞]	2,000倍 (5 ml／10 ℓ)〔7日前まで／3回以内〕			
	(黒 穂 病)					1. 絹糸抽出期以降発病株は胞子が飛散しないうちに抜き取り適切に処分する。 2. 発病が甚だしいときは3年くらい他の作物を栽培する。	
	す す 紋 病	3	トリフミン水和剤	2,000倍 (5 g／10 ℓ)〔7日前まで／3回以内〕	を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。	1. 8月中、低温多湿のときに発病が多い。 2. 8月中、早期に肥切れすると発生が多くなるので、窒素、カリ肥料および堆肥を十分施す。 3. E B I 剤（トリフミン水和剤）は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。	
	(ごま葉枯病)						
紋 枯 病	14	リゾレックス水和剤	1,500倍 (6.6 g／10 ℓ)〔14日前まで／2回以内〕	を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			
アブラムシ類	29 4A	ウララ D F モスピラン顆粒水溶剤 [㊞]	4,000倍 (2.5ml／10 ℓ)〔3日前まで／2回以内〕 4,000倍 (2.5 g／10 ℓ)〔前日まで／3回以内〕	を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			
(倒伏細菌病)					1. 発病ほ場では連作を避ける。 2. 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。		

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	ゴーゴーサン乳剤	3	200～400㎖／70～150ℓ	は種後出芽前 (雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科の雑草およびツユクサには効果が劣る。
	ラッソー乳剤	15	300～600㎖／100ℓ	は種後出芽前	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科雑草に効果が高い。
茎 葉 処 理 剤	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	6	100～150㎖／70～100ℓ	とうもろこしの生育期 (雑草の3～6葉期) (但し収穫50日前まで)	雑草茎葉散布	1 回	一年生雑草	・砂質土壌では使用しない。 ・イネ科雑草には効果がない。 ・散布は晴天時におこなうが、異常高温下での散布は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

ながいも (やまのいも) ・むかご収穫の場合は基準が異なるため、JA等に相談のうえ使用する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕			注 意 事 項	
植付け前	ネグサレセンチュウ	8A	DC油剤 [㊞] 【作付の10～15日前まで／1回】を10a当たり15～20ℓ（1穴当たり1.5～2㎖）全面または作条処理する。			1. 使用にあたっては、安全対策を行い、使用方法、注意事項を守り適切に処理する。	
植 付 時	アブラムシ類 コガネムシ類	4A	アドマイヤー 1 粒 剤 10 a 当 たり 4 kg【植付時／1回】を植溝土壌混和する。				
生 育 期	炭 そ 病 葉 洩 病	M5 UN,M3 11	ダコニール1000 ベンコゼブ水和剤 メジャーフロアブル	1,000倍（10㎖／10ℓ）〔30日前まで／6回以内〕 600倍（16.6g／10ℓ）〔21日前まで／4回以内〕 2,000倍（5㎖／10ℓ）〔前日まで／3回以内〕	のいずれかを10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。	1. 葉疫病にはキノンドー水和剤40～600倍（14日前まで／5回以内）を使用してもよい。	
		3A	アディオン乳剤	2,000倍（5㎖／10ℓ）〔7日前まで／5回以内〕		のいずれかを10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。	1. 合成ピレスロイド剤（アディオン乳剤）は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。なお、抵抗性病害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 2. アディオン乳剤はヤマノイモコガに登録がある。 3. モスピラン顆粒水溶剤 [㊞] は、ナガイモコガにも登録がある。
	4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊞]	4,000倍（2.5g／10ℓ）〔7日前まで／3回以内〕				
		（モザイク病）		生育初期にアブラムシ類の防除を徹底する。			1. 無病のいもを使用する。 2. 発病株は早期抜き取り適切に処分する。

除草剤使用基準

	薬剤名	RAC	10a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド乳剤	3	200～300㎖／100ℓ	植付直後	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	トレファノサイド粒剤25		4～6kg	生育初期 (植付30日後まで)	畦間土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	ロロックス	5	100～200g／70～150ℓ	植付直後	全面土壌散布	2回以内	一年生雑草	・砂質土壌では使用しない。 ・薬液がかかると薬害を生ずるので、作物にかからぬように畦間に散布する。
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200㎖／100～150ℓ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期) (但し収穫60日前まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまで7～10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500㎖／100～150ℓ	収穫30日前まで (雑草生育期: 植付前又は畦間処理)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成 分 名	農 薬 名	使用回数	同一成分総使用回数	備考
トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	1回	1 回	
	トレファノサイド粒剤25	1回		